

学位授与番号	乙第 1647 号
学位授与年月日	平成 20 年 3 月 5 日
氏 名	Agdamag Dorothy May Desierto
学位論文題目	Rapid Spread of Hepatitis C Virus Among Injecting-Drug Users in the Philippines : Implications for HIV Epidemics (フィリピンの注射薬物使用者における C 型肝炎ウイルスの急速な蔓延：HIV 流行との関連)
論文審査委員	主 査 教 授 西 條 清 史 副 査 教 授 金 子 周 一 中 村 裕 之

### 内容の要旨及び審査の結果の要旨

南・東南アジアのヒト免疫不全ウイルス (HIV) 流行の重要な特徴のひとつは、流行の初発が注射薬物使用者に起きていることである。本研究では、現在 HIV 低流行国の一つとされるフィリピンにおいて、注射薬物使用者、その他の集団における HIV、C型肝炎ウイルス (HCV) などの血液媒介性ウイルス感染状況を検討し、フィリピンにおける HIV 感染爆発防止対策の基礎データに供することを目的とした。対象は、フィリピン・セブ都市圏に居住する注射薬物使用者、吸入薬物使用者、性産業従事者、授産所受診妊婦、その他 (学生・医療関係者他) 合計 560 名である。2002 年にこれらの集団から得られた血液検体を使用した。

得られた結果は以下のようである。

- 1) 注射薬物使用者を含むどの集団にも抗 HIV 抗体陽性者はみられなかった。
- 2) 抗 HCV 抗体陽性者の割合は、注射薬物使用者集団 (70.1%、61/87) では吸入薬物使用者 (16.3%、7/43) と比較し有意に高率であった ( $P=0.00$ , Odds Ratio (OR)=12)。
- 3) 注射薬物使用者集団で流行している HCV 株は、genotype-1a または 2b のいずれかに分類された。それぞれの遺伝子型に属するウイルス株は互いに近縁であり、相互の重複感染はみられなかった。
- 4) 注射薬物使用者の HBsAg の陽性率 (10.3%、9/87) は、吸入薬物使用者 (9.3%、4/43,  $P=0.9$ ) と有意な差はみられなかった。

以上の結果から、フィリピン・セブ都市圏の注射薬物使用者では、汚染注射器・注射針の共用により、限られた感染源から HCV 感染が急速に蔓延していることが明らかとなった。この集団では、汚染注射針の共用により、血液媒介性感染症が急速に広がる素地を備えている。このことは、HIV も HCV と同様の経路で侵入し、感染を拡大する可能性を示唆している。したがって、注射薬物使用者への HCV の侵入経路ならびに感染拡大経路についてより詳細な知見を得ることは、フィリピンにおける有効な HIV 感染爆発防止対策をたてる上で重要であり、更なる検討が必要と考えられる。

以上、本論文は HCV の分子疫学的解析により HIV 低流行国における有効な HIV 感染爆発防止策の可能性を示したものであり、学位授与に値する業績と評価された。